

## 【ゾウの性格と鼻先コミュニケーション】実施報告

○開催日時：平成25年12月3日（土）15:00～17:15

○参加者：京都市立高野中学校 生徒5名，教諭4名

○講師：京都大学野生動物研究センター 安井早紀，生き物・学び・研究センター 和田晴太郎

○活動内容

動物園の役割として、「種の保存」「教育・環境教育」「調査研究」「レクリエーション」があげられる。その中の「調査研究」では、動物園の職員による調査研究活動の他に、外部研究者に協力して行う調査研究活動がある。こうした協力活動は、動物園にとって飼育下での科学的情報が得られるだけでなく、生息地や異なる環境における情報を得る良い機会となっており、幅広い視野で物事を見ることにつながっている。

そこで、サイエンス・パートナーシップ・プログラムにおいて、実習活動を経験してきた参加者に、動物園や実際の生息地で調査研究活動をしている若手研究者と話す機会を設けることで、より幅広い視野を身につけてもらうこととします。

また、今回の講師の調査研究対象動物となっているゾウについての生態や現状を理解するとともに、これまでの活動における失敗談や苦勞なども聞くことで、調査研究活動についても理解を深める。

### 【講座の様子】



○これまで行ってきた研究内容について説明

○タイでの生活や街の様子などを説明

### 【所感】

科学部の生徒を対象として実施したが、講師が自らの中学生時代の話も交えながら、どのように研究活動を行ってきたかを説明されていた。その中には、京都市動物園のゾウで行われた研究結果も含まれており、少し身近に感じられたのではないだろうか。また、研究だけではなく、研究のために訪れたタイでの生活や国の事情なども説明され、中学生にとっては良い刺激になったのではないかと思う。



京都市動物園  
生き物・学び・研究センター  
研究教育係長 和田晴太郎